

県ソフトボール連盟 新スタート

一昨年秋に発覚した県ソフトボール協会の審判不正問題。その混乱を収める形で協会に代わる新組織となった県ソフトボール連盟が、今年4月に法人化し、健全運営に向けた新たなスタートを切っている。一連の問題は元協会理事長の逮捕にまで発展。被った痛手は大きかったが、連盟の田代道明会長は「引き締まった運営で、愛好家が安心してプレーできる組織にしたい」と話す。【生野貴紀】

「あまりにも運営がずさん。1人の意見が通って、誰も意見を言えない状況だった」と連盟関係者は当時の協会を振り返る。通帳がいくつもあり、大会運営の収支書も作っていなかったという。2012年10月に、運営に不満を持った県内13支部のうち、7支部が脱退し、「連盟」を新設した。その後、元協会理事長ら5人が日本ソ

フトボール協会(日ソ)の認定試験を受けずに審判員資格を取っていたことが13年11月に発覚。協会は日ソや県体協から除名され、代わりに連盟が承認された。それでも、騒動は沈静化しなかった。14年1月、連盟幹部を中傷するビラ数十枚が連盟事務局がある有田町内にばらまかれた。同年2月には元協会理事長

リポート



前「協会」の審判不正で運営一新 法人化で透明性確保

と同事務局長が不正の追及をやめさせようと、日ソの会長に脅迫文を送ったとして、愛知県警に暴力行為法違反容疑で逮捕された。元理事長らはその後、同罪などで有罪判決を

受けた。「協会の騒動で、相応なダメージを受けた」と田代会長。各県の競技関係者からは不安の声が上がり、ホームページの掲示板には「佐賀に試合で行きたくない」などの書き込みがあった。「何とかして信頼を回復しなければならぬ」と法人化を目指した。協会では、少数人の意見が反映されたことの反省から、連盟では常に運営を話し合う「執行委員会」を新設した。総務部や強化育成部など八つの部をつくり、部長に各支部長を充てた。会議は公開にして、透明な運営を心掛けるという。



熱戦を繰り広げるソフトボール選手たち。4月に法人化した県連盟は、愛好家が安心してプレーできる組織づくりを目指す(写真と本文は関係ありません)

日ソ所属の都道府県組織で、法人に移行したのは静岡に次いで2例目。日ソは、責任の明確化や活動の透明性が図りやすいとされる法人化を地方組織に促しており、「素晴らしいことだ」と評価している。田代会長は「法人化が、全国に波及していけばうれしい。佐賀は問題を起して注目を集めたが、今度は健全運営のモデルケースとして注目されたい」と意気込みを語った。